

(東洋エンジニアリング(株) コンストラクション・ダイレクター)

氏は 1971 年に東洋エンジニアリング(株)に入社、以後工事部門に在籍し、国内および海外のプラント建設に従事。このうち通算 29 年間は、海外のプロジェクトにおいて、マネージャーとして建設サイトを統率した。在任した国は、旧ソ連、旧東ドイツ、サウジアラビア、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアなど欧州、中東、東南アジアの多岐にわたる。

特にインドネシア、シンガポール、マレーシアでは世界最大級のオレフィンプラントの建設に携わり、それぞれの国の石油化学工業および経済発展に寄与した。

シンガポールのオイルメジャー系のプロジェクトでは、客先の求める超短工期要求に対して、客先、サブコン、社内組織などの関係者から高いモチベーションを引き出し、氏のリーダーシップの下、工期通りの完成を実現。これにより客先から、その後の継続案件では個人指名を受けている。

また、インドネシアでは、1990 年代初めのプロジェクトにおいて、現地エンジニアリング会社、現地工事会社への技術指導、人材育成を手掛け、これらの会社の独り立ちと発展に寄与した。海外関連会社では当時関連会社であったタイ TTCL の他 マレーシア Toyo-Malaysia 及びインドネシア IKPT の育成に貢献した。直近のプロジェクトでは、インドネシア IKPT に、安全管理、品質管理、サブコン管理などの手法を効果的に移転することで、従来日本から多くの人員を派遣していたのに対し、このプロジェクトでは工事管理関係の日本人派遣者は 2 名のみで遂行している。また、この体制で工期 1 ヶ月前倒しの進捗を達成している。

信条は、「美しくあれ」「Be Beautiful」で、氏が統率するサイトはその信条が末端まで行き渡っており、文字通り整理整頓された安全な現場になっている。また、外見だけでなく、仕事のやり方にも美学が求められる。社内では、氏がマネージャーを務めるチームは「萱島組」と呼ばれ、一度は一緒に働いてみたいという声を聞く。

上記の優れた功績は、エンジニアリング功労者個人賞での表彰に値する。



萱島 正一氏



マレーシア案件での客先表彰



マレーシア石化プラントの現場において



インドネシアの現場で催された「Home Stretch Party」